

第3回(仮称)苫小牧市民ホールWG会議

【鑑賞WG】議事要旨

日時：平成28年9月16日(金) 13:30～15:30

場所：本庁舎2階 21会議室

出席：委員3名、事務局3名、北大2名

議題 アウトリーチや圏域をキーワードにしたアイデア・事例について

■ 前回のまとめと今回の議題

- ・ 前回はフリーディスカッションのかたちで、様々な意見が出された。中でも、苫小牧として文化を育成するための事業を行っていくべきだという意見が数多く出された。例えば、企画から公演までを一から市民で作り上げるイベントを行い、芸術分野のジャンルを越えた複合施設独自の交流を行っていくべきだというアイデアや、独自のチケット割引システムといったアイデアにより芸術分野に関心の薄い市民に対しても来訪のきっかけを作っていくべきだという意見も出された。
- ・ 今回の会議では、上記のような来訪の間口を広げるための「アウトリーチ」の活動、また、札幌市の施設との差異を考慮し苫小牧としてどのような活動を行っていけばよいのかという「圏域」のキーワードをもとに活動事業のアイデア出しを行っていきたい。

■ 複合施設の圏域の考え方

苫小牧の複合施設としての位置づけ

- ・ 複合施設と港を連携させ、苫小牧市を観光客などにも知ってもらえる施設にしたい。苫小牧の良いところや誇りを持てるところが少ないのが現状であり、青森といえばねぶた祭りのように、新しい施設が市の目玉になるとよい。
- ・ 苫小牧の周辺には苫小牧港、新千歳空港や支笏湖があり、札幌市にも近く、道南へも行けるという環境がよい。
- ・ 大きなホールを使う演奏会やイベントは札幌、胆振圏域での活動ができるホールは苫小牧といった役割分担をする必要がある。
- ・ 函館のホールは、イベントなど目的を持った来訪のための施設だが、苫小牧は札幌までの中間地点としての位置づけでもあるため、複合施設の作る目的が異なっていくように思っている。
- ・ 市としては、一流の音楽を聞ける場所として施設を作りたいと思っていて、一概に札幌に行けばいいとは考えていない。

複合施設にもたせる機能について

- ・ 複合施設を胆振地方のイベントや活動の「情報発信の場」という機能をもたせ、電光掲示板を通りに向けて設置して昼夜問わず情報発信してはどうか。
- ・ 苫小牧を盛り上げるための提案に対してのアドバイザーや相談所といった機能を複合施設にもたせ、提案に対して一緒に動いてくれる施設がよい。

指定管理者が複合施設を管理運営する

- ・ 茅野市民館の事例のように、実務のプロである指定管理者が市民主体でイベントの企画や運営を行う際に見ていてくれる環境、また複合施設を監修してくれる環境は心強く、安心できる。
- ・ 兵庫県にはコメディ調に演奏をしているおもしろい劇場があるが、その館長や先生はどのように選ばれ、どのくらいの期間やっているのかを知りたい。
- ・ 館長の任期は施設ごとにケースバイケースである。茅野市民館の館長は建設当初から十数年携わっている。一方、可見市は当初ではなく後から館長になっている。
- ・ イベントやマネジメントのマンネリ化は良くないが、館長やスタッフが当初の理念を引き継いでいくことも大切なことである。

■ 複合施設のアウトリーチを考える

市民が複合施設を利用したくなる取組

- ・ 市民の芸術文化活動に親しむ素地を育てるためにも、まずはプロに来てもらうことが重要だろう。そのためには、小さい会館でも音が良く居心地がいいといった個性あるホールや特色のあるイベントを行った方がよい。現在、札幌市に Kitara という音響の良いホールがあるので、プロは Kitara に行ってしまう印象がある。
- ・ びわ湖ホールのように、施設開館前からイベントを行い、施設への期待感や市民の文化に対する素地を育むアイデアも考えられる。
- ・ 施設の窓がステンドグラスになっている会館などいろいろな事例を見たとき、複合施設に苫小牧らしさを表す工夫を考えるとよいのではないか。例えば、複合施設内のホワイエの天井をプラネタリウムにするなどが考えられる。
- ・ 住みたい町 No.1 となっている恵比寿は、毎日イベントがあり住んでいても飽きない町であることが住人にとってはよいそうだ。恵比寿を参考に複合施設でも毎日または定期的にイベントや祭りを開催してはどうか。
- ・ イオンのようにたくさんの人がふらっと訪れるために、図書館、蔦谷書店やパン屋などの商業・ATMなどの機能があると良い。
- ・ 以前、苫小牧演劇鑑賞会という団体があり、演劇の公演や鑑賞の企画をしていた。現在は会員の減少によりそういった活動ができなくなったため、団体の代わりに市が役

割を引き継ぎ、イベントを開催してはどうか。

- ・ 白老の「蔵」という創造空間、琴似の「コンカリーニョ」を参考に、100人規模くらいのホールを使い、苫小牧出身のsoftlyなどアーティストに出演してもらうなど、市民主催のイベントを開催してはどうか。
(例: しらおい創造空間 蔵 URL:<http://www.shiraoikura.sakura.ne.jp/home.htm>)
(例: 生活支援型文化施設 コンカリーニョ URL:<http://www.concarino.or.jp/>)
- ・ 複合施設の利用料が安くなるという宣伝は、これまで利用してこなかった市民が複合施設利用につながるはじめの一歩になるのでよい。まずは施設に来てもらうことが大切だと思われる。
- ・ 「森山威男ドラム道場」の事例のように、プロから学ぶということは貴重な体験である。苫小牧ではそういったプロから学ぶ機会があまりないため積極的に取り入れたい。
- ・ 東京や世界で活躍している演奏家を呼んで子供たちや一般市民とのふれあいも大事だが、苫小牧出身の若手演奏家(例: 福井萌さん)がお客さんを巻き込んでいく参加型の演奏会や市民の楽器体験などを開催し、市民を惹きつけることも重要である。また、演奏の息遣いを間近に体験できる空間があるとよい。
- ・ 苫小牧出身の演奏家を中心に演奏会やイベント開催し、年に数回プロを呼んではどうか。

■ 苫小牧市の現状について

苫小牧市の吹奏楽の現状

- ・ 苫小牧は音楽家にとっては、若手が育っていける土地柄でありちょうどよい規模のまちである。苫小牧の吹奏楽部がある中学校は5/14校しかなく、優秀な子を発見しやすい。
- ・ 市外の学校が練習場所として市民会館などの施設を借りるケースがあるが、利用料金が高いため借りにくい。そのため、1校単体ではなく吹奏楽連盟で借りているので、苫小牧市でサポートしてはどうか。

市民会館と文化会館の現状

- ・ プロや素晴らしい方々がKitaraと苫小牧を比べると、苫小牧市の施設は古く、クーラーが無い等の設備環境も悪いため、Kitaraに行ってしまうが苫小牧にも引っぱり張ってきたい。
- ・ 満席になるのは年に8回程度あり、その中でも駒澤高校の行事は特に動員が多い印象がある。
- ・ ホールについて、文化会館の広さでは狭くきちんとした練習ができず、市民会館の広さでは大きい値段が高いように思う。
- ・ 施設を借りる側にも利用料が安くなるサービスがほしい。

- ・ 借り方の制度を3時間ごとではなく、1時間ごとに変更することで稼働率を上げるアイデアが考えられる。
- ・ 通年同じ費用にすることで、冬期の暖房費による値上げを解消してほしい。

利用予約システムの課題

- ・ 利用予約システムが抽選制度ではなく、9時に連絡した先着順になっているため、複合施設ではシステムの考え直す必要がある。
- ・ 苫小牧にある全ての施設の空き情報管理されていて、即座に予約できるシステムが必要だ。
- ・ 市民会館と文化会館が複合になった場合、予約制度や演奏会の日程の重複など、管理や運営のあり方を見直さなければならないだろう。

他自治体の施設具体例

- ・ 函館アリーナは防音の仕切りを採用しているため、大きいスタジオから会議室まで様々な用途に対応できる。
- ・ 文京シビックホールの小ホールの設け方が良く、小ホールは練習やリハーサルの時はフラットな空間として大きく使い、演奏会の時はひな壇を出し演奏している。
- ・ 小ホールの大きさはアイビープラザの規模がちょうどよいのではないか。

ホールや練習場所にほしいもの

- ・ ダンスやバレエの場合は床が重要であり、会議室の床では滑ったり怪我したりと危ないため体育館の床のように柔らかい素材が良い。後引きの素材「リノリウム」でも良い。また、ダンスやバレエであれば鏡とバーがほしい。
- ・ 天井から鏡やバーが降り、ダンス用の床も下から出る仕組みも考えられる。
- ・ アイビープラザは、鏡があり床も柔らかく踊りやすい仕様になっており、なおかつ部屋の大きさも適度な規模である。

新たな複合施設にほしい「相談所」

- ・ リノリウムがべこべこで交換してほしいなど、備品のメンテナンスをしっかりとしてほしいが、困ったときに相談する窓口や場所がない。
- ・ 館長が全てを知っているわけでないので、館長の下にアドバイザーを設けてメンテナンスをしっかりとする。
- ・ 親身になって聞いてくれるスタッフや「相談を聞く会」を開くのも良い。

ホワイエの有効利用について

- ・ ホールや練習室だけでなく、ホワイエのような手軽な練習空間があればよい。

- ・ 市民会館ではホワイエも貸出しをしており、現在は展示や商品販売に利用されていることが多い。

■ 新たな複合施設について

新たな複合施設におけるホール目指す姿

- ・ 近年、札幌や苫小牧では音楽フェスなどの市民が参加できる活動が多いため、茅野市民館のマルチホールのように市民の活動に合わせて分割・移動が可能なホールは利用しやすく、稼働率も上がりやすいのではないかと。
- ・ 苫小牧は全国大会につながる練習場所やコンクールとして利用されている実績がある。現在使用されているイベントを切り捨ててしまうのは考えにくく、日胆地区として1,000席以上の客席は必要なのではないかと。
- ・ ホールは全ての世代に愛されるホールにしたいので、高齢者はゆっくりお茶をしたり若者はダンスなどアクティブに動いたり、世代別のアイデアや仕掛けを考えるべきであろう。
- ・ 函館の蔦谷書店では午前は高齢者、午後は学生、夜は社会人の利用が増える傾向がある。
- ・ 蔦谷書店に様々な世代がいるのは、それぞれの年代に対応したコンテンツが揃っているためである。
- ・ 社会人の立場としては、遅くまで開館している施設がよい。

収益について

- ・ 席が少なかったり、多かったりすると興行的にまわらなくなる。興業的に成立するには1,500席が目安だが、複合施設は公共施設であるため興業的ではなく市民のための複合施設にするべき。
- ・ 維持管理にお金がかかる問題があるため、余裕をもって大きい施設をつくるのではなく、適当な大きさにする必要がある。

複合施設でのイベント

- ・ 芸術祭やアートフェスティバルなどのように、演奏会の日程は告知をするが何をするかはわからないイベントを行うビックリ箱のようなアイデアが考えられないか。
- ・ ダンス、バレエや音楽など他ジャンルの融合など活動も複合していきたい。
- ・ オーケストラピットを設けることで吹奏楽とダンスの融合ができる。

■ 次回のWG会議に向けて

- ・ 次回は、無目的利用と定常・定期利用がキーワードとなり、公演などの目的がなくても気軽に施設を訪れるためのきっかけづくりやそのための仕掛けを考えていく。今回

のWGと同じように、事前に資料を送付するのでそれを読み込み、苫小牧では何をすべきなのか、複合施設としてどのような活動事業があればよいかアイデアをいただきたい。

■ 今後のスケジュール

次 回（第4回）：10月18日（火）13:30～@本庁舎2階21会議室

次々回（第5回）：11月 9日（水）13:30～@本庁舎2階21会議室